

瀬戸内海漁業基本調査※

渡辺勇二郎

目 的

紀伊水道における小型エビ類、シャコ類の資源状況および小型底曳網漁業による漁獲状況を把握し、これらの資源についての基礎的資料を得ることを目的とする。

方 法

昭和61年度瀬戸内海漁業基本調査要綱により、雑賀崎漁業協同組合所属の小型底曳網漁船に漁獲された小型エビ類、シャコ類の一曳網分を原則として毎月1回採取し、種類別、雌雄別に体長、総尾数、総重量の測定を行った。

結 果

1986年4月から1987年3月の間に12回の標本採取を実施し、各回所定の調査表にとりまとめ、南西海区水産研究所に報告した。

図1に標本漁船の小型エビ類とシャコ類の1曳網当り漁獲量の季節変化を示す。シャコ類は一曳網当り平均3.0kgであり、3～4月および8～11月に比較的多く漁獲された。また小型エビ類の一曳網当りの漁獲量は平均1.2kgであり、5～10月に多く漁獲された。年間の総計からみると小型エビ類の主体をなすのは、サルエビ(小型エビ類中の39.5%)、アカエビ(25.0%)、キシエビ(20.8%)、トラエビ(13.5%)の4種で、これらで、小型エビ類漁獲量の98.8%を占める(図2)。サルエビは4～6月、10～12月、アカエビは7～8月、12～3月、キシエビは8～11月、トラエビは7月、2～3月に多く漁獲された。

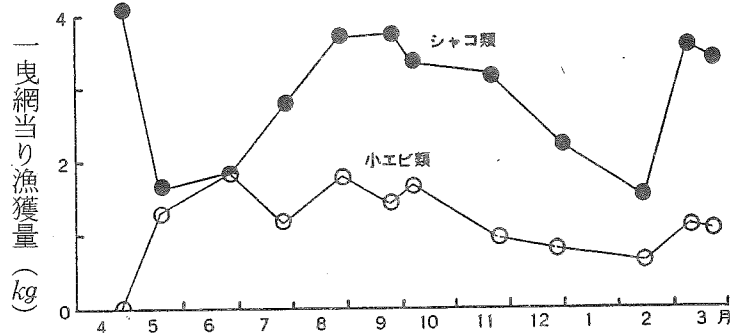


図1 雑賀崎漁協の小型底曳網標本漁船による、シャコ類、小型エビ類の1曳網当り漁獲量の季節変化 (1986.4~1987.3)

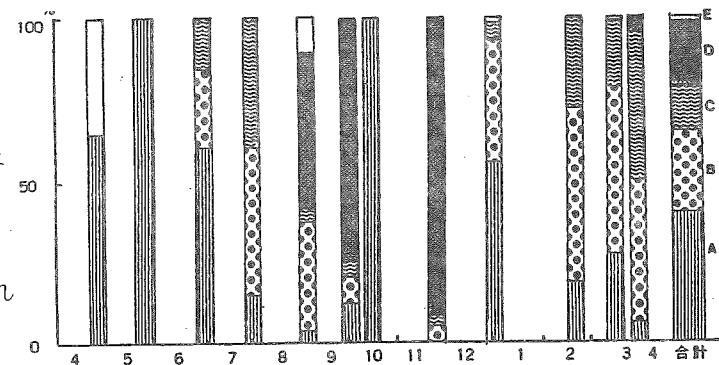


図2 雑賀崎小型底曳網標本漁船に漁獲された小型エビ類の種組成の季節変化(1986.4~1987.3)

A:サルエビ B:アカエビ C:トラエビ D:キシエビ E:その他

※ 漁業資源調査費による。